

令和三年度 東京純心大学

一般選抜試験（第二回）【国語】試験問題

試験時間 60分 問題は1～9ページ

注意事項

- ・ 解答は、解答用紙及びマークシートに記入すること。
- ・ 問題用紙も、試験終了後回収する。

受験番号

令和3年2月21日

□ 次の文を読み、以下の設問に答えなさい。

後の人のために

街に出ると、ときどき思いがけない時の(ア)うつろいを目の当たりにして、今浦島のような気分になることがある。

たとえばこの間は、電車の中でセーラー服の二人連れがコーラを飲んでのを見かけた。

それ自体をいけないことと(イ)ひなんするほど、浮き世ばなれしているわけではない。気になったのは、その先である。飲み終わると少女たちは、話を続けながら身体を傾け、少しのためらいも見せずに、自分たちの足もとに空になった紙コップを転がした。そして「じゃあね」「バイバイ」となんの屈託もなく別れていく。取り残された紙コップは電車に揺られながら、あちらの足からこちらの足へと漂い始めた。

「あら、そんなのこの頃じゃ当たり前よ」

と、ある人は事もなげに言う。

「別に、だから悪い子ってわけじゃないの。最近みんなそんなふうよ。いけないことだって知らないのね」

(1)私<sup>(1)</sup>が深い溜め息とともに、今浦島であることを実感するのは、そんな(ウ)瞬間である。

「今の若いもんは」とか、「自分の若い頃は」とか、そんな(2)練り言を絶対に口にしない大先輩がいる。その素敵なおじさまが、たった一度だけ、海外でときどき出くわす日本人のお行儀の悪さをぼやいたことがあった。

「マナーってものがなくなっていないんだな。後の人のことをまるつきり考えてないんだから」

この日本男児は、海外に出るときは、日本という国をまるごと自分の肩にしよって行く。多くの日本人がかき捨てる旅の恥を、ひとつひとつ拾って歩くのだ。

ご高齢だから、飛行機に乗れば結構(エ)頻繁にトイレを利用する。そのたびに、置きっぱなしの石鹸が気になる。ドロドロの洗面台が気になる。だらしなくたれ下がったトイレットペーパーが気になる。だから、毎度石鹸を捨て、洗面台を拭きあげ、トイレットペーパーを折り返し、ついで

に鏡まで磨いて出てくる。

「ホテルなんかでも、後から来る人のためにドアを押さえるってことをしないんだな」

ドアを開けたら後ろをチラリと振り返って見る。続けて人がやって来ていればその人のために、ちよつとだけドアを押さえておいてあげる。次の人が笑顔でドアを引き継ぐ。こうして笑顔とともに(オ)とどこおりなく人は流れて行く。

とある国のとあるホテルの入口で、おじさまはいつものように笑みを浮かべて後ろの人のためにドアを押さえていた。そこに、ドドドツと日本人の団体がなだれこんできた。誰も笑顔を返さない。誰もドアを引き取ってくれない。ドアを押さえている者などには目もくれず、われ先にとホテルに入っていく。

「その間ずっとドアマンよろしくつつ立ってたよ。いやになっちゃったねえ……」

この方、日の本では大会社の大会長さんである。しかし、外つ国ではこうしてときどきドアマンとしての(3)辛酸しんさんもなめているらしい。

すべては「知らない」というところから始まっているのだろう。日本ではどこへ行っても自動ドアである。ドアを押さえておくのが礼儀どころか、「ドアにはさわるな」と小さいときから繰り返し教えられる。

オーストラリアでの初舞台も、(カ)千秋楽を二、三日後に控えた頃、やつとのことで(キ)台詞以外のことを考える余裕が出てきた。そういえば、ブリスベンでもアデレードでもアパートと劇場を往復するばかりで、何ひとつ観光らしいことをしていない。三カ月もオーストラリアにいたのに、この国のことを何も知らない、ふと後ろめたさを感じた。

翌朝、私はささやかな(ク)ぼうけんを試みることにした。早起きして、劇場までバスに乗るのである。今までは、時間がもったいないからとか、迷って遅刻したら大変だからという理由で、いつもタクシーを使っていた。

しかし、バスに乗ろうと決めたはいいが、どこから乗ればいいのか、まずそんなことからしてわからない。停留所を見つけると今度はいつバスがやって来るかが、バスが来たたら来たで本当に目的地まで連れていってくれるかが、不安になる。

不安の(ケ)かたまりを抱えてのバスの旅は、決して楽しいものではなかった。アデレードの美しい街並みも、さやかに揺れる緑も、腕時計を覗

きこむたびにうつろにかすんでしまう。右を見ても左を見ても知らない景色が映っている。

(ああ、間に合うかしらん)

(ああ、バスなんて使うべきじゃなかった)

百ぺん目の後悔をしていたとき、目の端に見知った建物が飛び込んできた。と、思う間もなくバスは止まり、後ろのドアが開いた。(助かった!)と、反射的にバスから飛び降り、まっすぐ劇場を目指して走った。

五十メートルばかり走ったろうか、後ろから「ちよつと、ちよつと!」と、すごい声で呼び止められた。振り向くと、(4)八十がらみの白髪の上品なおばあさんが、ゼイゼイ息を切らしながら、私の方に向かって走ってくる。

「私はあなたの後ろにいたのよ」

と、おばあさんは叫んだ。

「人が後ろにいるときは、ちゃんとドアを押さえておかなくちゃだめじゃないの。閉まりかけたドアに挟まれそうになったわ」

ごめんなさい、初めてバスに乗ったので、ごめんなさい、日本は自動ドアなので、ごめんなさい、知らなかったので……、しどろもどろの英語で平謝りに謝る私に、おばあさんは噛んで含めるように言った。

「いい? ドアは後ろの人のために押さえとくものよ」

そして静かに(コ)踵を返し、去っていった。

私はオーストラリアを知らない。コアラも見なかったし、カンガルーにも遭わなかった。ゴールド・コーストにも、エアーズロックにも行かなかった。

でも、辛うじてバスの降り方だけは知っている。みんなあのおばあさんのおかげである。

一、 傍線(ア)～(コ)の漢字をひらがなに、ひらがなを漢字(送りがなを含む)に書き換えなさい。

(ア) うつろい

(イ) ひなん

(ウ) 瞬間

(エ) 頻繁

(オ) とどこおり

(カ) 千秋楽

(キ) 台詞

(ク) ぼうけん

(ケ) かたまり

(コ) 踵

二、 傍線(1)について、ここで「私」が「今浦島であることを実感する」ことになったのは、どんな事例についてか。挙げられている例を五〇字以内で端的に要約しなさい。

三、 傍線(2)「繰り言」とはどのような意味か。最もふさわしいものを①～⑤の選択肢より選び、番号をマークしなさい。解答番号は **1**。

① 泣き事や不平などを、くどくどと言うこと。

② これから起こる事を予言すること。

③ 歌の声。

④ 調子に合わせてかける声。

⑤ 囃子詞。

四、 傍線(3) 「辛酸もなめている」とはどのような意味か。最もふさわしいものを①～⑤の選択肢より選び、番号をマークしなさい。 解答番号は2。

① 酔の物を食べる事。

② 洗濯をする事。

③ 辛く苦しい思いをする事。

④ 甘いものをなめる事。

⑤ 化学物質の製造をする事。

五、 傍線(4) 「八十がらみの白髪の上品なおばあさんが、ゼイゼイ息を切らしながら、私の方に向かって走ってくる。」のおばあさんは何を教えるために走ってきたのですか。本文中の適当な語句を用いて二〇字程度で説明しなさい。

□ 次の文を読み、以下の設問に答えなさい。

ゆき【雪】

雪が好きなひとは楽天家、雨が好きなひとはペシミストという説がある。霰あられが好きなひとは——マゾヒスト。

私は(ア)あつさよりも寒さのほうが断然好きだ。夏は部屋に隠こもっているが、肌寒さを感じると胸騒あざわぎがし、北国を旅したい気持ちを抑え難くなる。

雪が降る場所には何日いても飽きない。車が通らない山路をかなり歩かなければならない温泉宿に滞在していたとき、十泊の予定だったが八泊目に雪が降った。泊まり客たちは(イ)帳場ちやうばうの前のダルマストーブを囲み、帰れなかったらどうしよう、(ウ)しごとがあるのに、と(エ)恨めしうに雪を眺めていたが、私は雪がざんざん降る露天風呂あふろに顎あごまで浸ひかり、口を空に向けて雪を食べたりしていた。そしてこのまま雪が降りつづき、春になるまで宿に閉じこめられることを夢みていた。だから翌朝宿の主人が除雪しはじめたときにはほんとうに(1)がっかりした。

小さいころ、小泉八雲の「雪女」が好きでくりかえし読んだ。

——ふたりの樵きこりが山のなかで吹雪ふぶきに遭あう。山小屋を見つけてそこで休むが、いつしかふたりは眠りに落ちてしまう。若いほうの男が薄く目をあけると、年老いた樵の顔に、この世のものと思えない美しい女が氷のような息を吹きかけている。女は若い男にも顔を近づけ息を吹きかけようとするが、男の若さに免じて命を奪うことをやめる。

「このことを誰かにしゃべったら、(2)そのときは許さないよ」女は吹雪に消える。老いた樵は既に(オ)絶命ぜつめいしていた。生き残った樵は女との約束を守る。ある夏、家の前に女が倒れている。雪女と瓜うりふたつの——。男は看病をしているうちに、女に恋をし、結婚する。つぎつぎと子どもが生まれる。男は老いていくが、女は出逢であったときそのまま美しい。吹雪の夜、男はぼつりと雪女の話をしてしまう。「約束を破ったね」彼女は雪女だったのだ。しかし子どもがいるので男の命を奪うことはできない。「その子たちを不幸にしたら今度こそ——」といい残して女は再び吹雪の

なかに去る。

大人になって、雪女伝説が東北の貧しい村から女郎に売られていった娘や妻たちの話だという説を知った。

年季が明けて雪道をとぼとぼ歩いてくる派手な着物に(カ)厚化粧の女たち——、村人たちは口々に「雪女だ」と囁きあい、(3)窓を閉めて決して開けなかった——。

私の(キ)叔母は若いころ、絵本のなかの雪女そっくりだった。二十代はじめにパリで美容師の勉強をしたのだが、帰国後しばらくして韓国の田舎に棲む男と見合い結婚した。そして数年後、ふたりの子どもを連れ、寡れ果てて日本に逃げ戻ってきた。

あるとき(ク)かいえん間近の劇場ロビーに、蝟の脚のように絡まった枯れ木を抱えた女が現れた。叔母だった。

「今ね、ハープを勉強してるのよ。これ、いい匂いのする樹なの。(ケ)げんかんに置いておくと気分が安らぐわよ」とだけいうと叔母は踵をかえした。

「(コ)しばい観ていかないの」と声をかけたが、振り向かなかった。

雪女、私は心のなかで呟いた。

もしかしたら、(4)私の一族には雪女の血が流れているのかもしれない。

出典 柳美里 著 『私語辞典』 角川書店 平成十一年十月二十五日



一、 傍線(ア)～(コ)の漢字をひらがなに、ひらがなを漢字(送りがなを含む)に書き換えなさい。

(ア) あつき

(イ) 帳場

(ウ) しごと

(エ) 恨

(オ) 絶命

(カ) 厚化粧

(キ) 叔母

(ク) かいえん

(ケ) げんかん

(コ) しばい

二、 傍線(1)「がっかりした」のはなぜですか。最もふさわしいものを①～⑤の選択肢より選び、番号をマークしなさい。解答番号は **3**。

① せつかくの雪景色が壊れてしまったから。

② 露天風呂に入れなくなったから。

③ ダルマストーブが壊れてしまったから。

④ 他の客がいなくなってしまったから。

⑤ 春まで閉じ込められることがなくなったから。

三、 傍線(2)「そのときは許さないよ」という文言は、どうすることを意味していますか。本文中の適当な語句四字で説明しなさい。

四、 傍線(3)「窓を閉めて決して開けなかった」のはなぜですか。最もふさわしいものを①～⑤の選択肢より選び、番号をマークしなさい。

解答番号は **4**。

① 女たちが雪女なので、命が奪われてしまうから。

② 外は雪で寒いから。

③ 女たちに気づかなかったから。

④ 閉めた窓は春まで開けないから。

⑤ 女たちと関係を持ちたくなかったから。

五、 著者が傍線(4)「私の一族には雪女の血が流れているのかもしれない」と私と私の叔母について感じている理由として明らかにふさわし

くないものを①～⑤の選択肢より選び、番号をマークしなさい。解答番号は5。

①寒さが好きだ。

②雪に閉じ込められたらうれしい。

③叔母が絵本のなかの雪女そっくりだった。

④ペシミストだから。

⑤楽道家だから。

(余白)